

彩の国シェイクスピア・シリーズ第18弾

# オセロー

## 蜷川幸雄、13年ぶりの挑戦

“悲劇の演出家”がシェイクスピアの四大悲劇のひとつ『オセロー』に取り組む。

実に13年ぶりの演出となるが、なぜ、今、この作品を選ぶのか。

常に作品の新しい側面に光を当て、新しい息吹を吹き込む蜷川は、

今度はどんな『オセロー』を見せてくれるのだろうか。

文：木俣 冬（フリーライター）

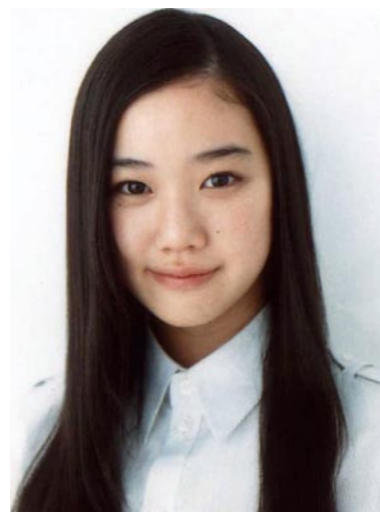
### Cast



KOTARO YOSHIDA

吉田鋼太郎（よしだ こうたろう）／オセロー

蜷川演出舞台では『コリアレイナス』『オレスティス』『タイタス・アンドロニカス』『間違いの喜劇』『メディア』『オイディプス王』『グリークス』等多くの作品に出演。タイトルロールを演じた『タイタス・アンドロニカス』の英国公演（2006）では絶賛を浴びた。ほかに、栗山民也演出『喪服の似合うエレクトラ』、ジョンサン・ケント演出『ハムレット』など、様々な演出家の舞台に出演している。第6回読売演劇大賞男優賞、第36回紀伊國屋演劇賞個人賞などを受賞。



YUI AOI

蒼井優（あおい ゆう）／デズデモーナ

99年ミュージカル『アニー』で約1万人の中から選ばれ、デビュー。01年『リリイ・シュシュのすべて』で映画デビュー。その後、若手女優の中でも、どんな役でもリアリティーを持って演じられる幅広さ、圧倒的な存在感持つ実力派として高く評価され、映画を中心にテレビ、CMでも活躍し注目を集めている。06年は『ハチミツとクローバー』、『フラガール』など数多くの映画作品に出演し、女優賞を総なめ、女優としてのキャリアを重ねている。蜷川演出舞台は04年の『シブヤから遠く離れて』以来2度目となる。



YOTAKA TAKAHASHI

高橋洋（たかはし よう）／イアゴー

97年ニナガワ・スタジオのオーディションを受け合格、98年『ロミオとジュリエット』バルザザン役で初舞台を踏む。以後、蜷川作品に連続して出演。『近代能楽集～卒塔婆小町』、『真情あふる軽薄さ2001』では主役をつとめる。近年の出演作に『タンゴ・冬の終わりに』『あわれ彼女は娼婦』『白夜の女騎士―ワルキューレ』などがある。過去の彩の国シェイクスピア・シリーズ『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『恋の骨折り損』には、いずれも重要な役で出演している。

S a i n o k u n i S h a k e s p e a r e S e r i e s V o l . 1 8

## Othello

### 13年ぶりの再挑戦

疑惑。それはいつも人を底知れない闇に突き落とす。

『オセロー』は疑惑にからめとられた人間の姿を描いた作品。シェイクスピア4大悲劇のひとつで、言うまでもないが、他に『ハムレット』『リア王』『マクベス』がある。

彩の国シェイクスピア・シリーズ（SSS）では『お気に召すまま』（04年）『間違いの喜劇』（06年）『恋の骨折り損』（07年）と、生きる喜びに満ちた幸せな喜劇を演出する蜷川幸雄だが、本来“悲劇の演出家”という異名も持ち、昨今では『タイタス・アンドロニカス』『コリアレイナス』と人間同士の葛藤の中で悲劇的な最期を迎える者の生き様を鮮烈に観客の心に刻みつけてきた。

4大悲劇は、『リア王』3回、『ハムレット』4回、『マクベス』に至っては11回も演出している蜷川が、『オセロー』だけは過去に1回しか演出していない（94年日生劇場／出演 オセロー・松本幸四郎、デズデモーナ・黒木瞳、イアゴー・木場勝己ほか）。

この10月、13年の時を経て蜷川が『オセロー』に再び挑む。SSSとしては初『オセロー』となる。

### 『オセロー』の悲劇、決定版に!?

『オセロー』は難しい。多くの演出家は出世に対する業の凄まじさから手練手管でオセローを巧みに陥れるイアゴーに現代性を投影してしまいがちですが、ぼくはオセローそのものが持っている悲劇を掘り下げたい。圧倒的な白人社会、しかも階級制の中で、有色人種（ムーア人）のオセローが感じる揺らぎを描きたいですね。ぼく自身は直接的な人種差別にあったことはないけど、英国社会で仕事すると英国人と日本人の考え方がまったく違うのを常に実感します。言葉もわからないから稽古場でイギリス人同士で集まっていると、ぼくの噂をしてるんじゃないか?と一瞬不安になる時がある。結局、自分自身に揺らぎがあるとあらゆるものが疑わしく思えてくるものなんです。それが今回の『オセロー』を描く発端ですね。

人は安定した状態から離れてアウェーな場にいると不安になる。自分の居場所を確保するために常に他人のことを気にして、他人と差別化しようと懸命にもなる。たとえば、情報を得てそれを利用したり陰口をまき散らすイアゴーみたいな人もいる。「といて日常に置き換えた演出をするつもりはありません。そういった状況を世界レベルの観点から描きます。ムーア人（黒人）と白人という構造はそのままです。そしてこの人種の違いは、アジア対西欧と考えてもらってもいいと思います」

### 舞台俳優 vs 映像俳優 実力派の共演!

オセローに吉田鋼太郎、デズデモーナに蒼井優、イアゴーに高橋洋。演劇界と映画界の俊英たちの出会いとなった。「鋼太郎と高橋はSSSと共に成長してきた俳優。実力ある舞台俳優をSSSで育てることは公共の劇場の責任だと思っています。オールメール・シリーズが成功した今、こういうキャスティングもSSSシリーズの名物のひとつにしたいですね」

吉田鋼太郎は04年『タイタス・アンドロニカス』でSSS初登場、英国ロイヤル・シェイクスピア・シアターの舞台に日本を代表して立ち、名実共に“日本のシェイクスピア俳優”の地位を得た。高橋洋は、SSS第一作98年『ロミオとジュリエット』で舞台デビュー後『マクベス』（01年）『タイタス』初演（04年）『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『恋の骨折り損』と次々出演、まさにSSSから育った俳優だ。

蒼井優は、日本アカデミー賞ほかあらゆる今年の映画賞を総なめ、出演作品も膨大な、いまや時の人。蜷川作品は04年『シブヤから遠く離れて』以来の2度目となる。子供の頃からバレエを習い、大地をつかむ安定感と天空に浮かぶ透明感を兼ね備えた柔軟さが魅力的だ。

「オセローは、愛する妻の浮気を疑うことで自滅していくから、圧倒的に若くて美しいデズデモーナであることが大事。優ちゃんはピッタリだと思います。台詞術や戯曲を読み込む力のある鋼太郎、現代的なシャープさをもつ高橋、蒼い蕾のように若く美しい優ちゃんという3人の組み合わせを楽しみにして頂きたいです」（蜷川）

### STORY

ヴェニス公に仕えるムーア人の将軍オセローは、若きデズデモーナを妻とし、二人は深く愛し合っている。旗手イアゴーは、自分ではなく同輩キャシオーを副官に昇進させたことで、オセローに深い恨みを抱いている。イアゴーは忠実な部下を装いながら、オセローを罠にはめるべく、デズデモーナがキャシオーと通じているとうそぶく。誠実なオセローはその策略にはまり、深く愛するがゆえにデズデモーナへの疑いを募らせ、その抑え切れない嫉妬心は妻の真実の言葉さえ信じることができなくなり……。

彩の国シェイクスピア・シリーズ第18弾 『オセロー』 **NEW**

【日時】10月4日(木)～10月21日(日) 全18公演  
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蜷川幸雄 【作】W.シェイクスピア 【翻訳】松岡和子  
【出演】吉田鋼太郎、蒼井優、高橋洋、馬淵英俣可、鈴木豊、山口馬木也、壤晴彦ほか  
【チケット(税込)】S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円  
【発売日】一般 6月16日(土)

※メンバーズ優先予約につきましては、同封のプレオーダーシートにより、お申し込みください。